

〔国際会議開催〕

申請者	京都大学 工学研究科 教授 土屋 智由	2195007
国際会議名称	7th IEEE International Symposium on Inertial Sensors and Systems (INERTIAL 2020)	
開催期間	2020年3月23日～3月26日	
開催場所	ウェブ開催 https://2020.ieee-inertial.org/	
申請者の役割	Conference Chair	

概要：

慣性センサは物体の運動による慣性力を測定し、加速度や角速度を検出する。加速度、角速度センサは、自動車、航空機、ゲーム機、モバイルデバイスなどで人、デバイスの運動の検知など各種機械システムの制御を高度化することに役立っている。

本国際シンポジウムはその名の通り慣性センサとこれを応用したシステムの国際シンポジウムである。慣性センサは機械式、光学式、また微小電気機械システム (MEMS)、近年では原子干渉型などの量子効果を用いた方式が存在し、それぞれの分野で個別に議論されてきたが、本シンポジウムはあらゆる慣性センサとそれを用いた制御システムの研究を横断的に議論することを目的として最新の研究が報告されており、慣性センサの議論の場として学術的意義は高い。

INERTIAL 2020 はこれまで米国での開催がほとんどであった中で初めてのアジア、日本での開催を計画して、初日4件のチュートリアル、3日間の技術セッション (3件の招待講演を含む) にて約70件の講演が予定されていた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、グランドプリンスホテル広島での開催を中止し、ウェブ上のオンデマンド配信の形でのバーチャル会議として開催された。1か月前の開催形態の変更にもかかわらずほとんどの発表がキャンセルされることなく行われた。残念ながら、宮島でのバンケットや技術展示は中止となり、参加者間の交流の場が限定されたが、最終的には103名の登録者があり、慣性センサとその応用システムの最新の成果、技術交流の場を提供することができた。